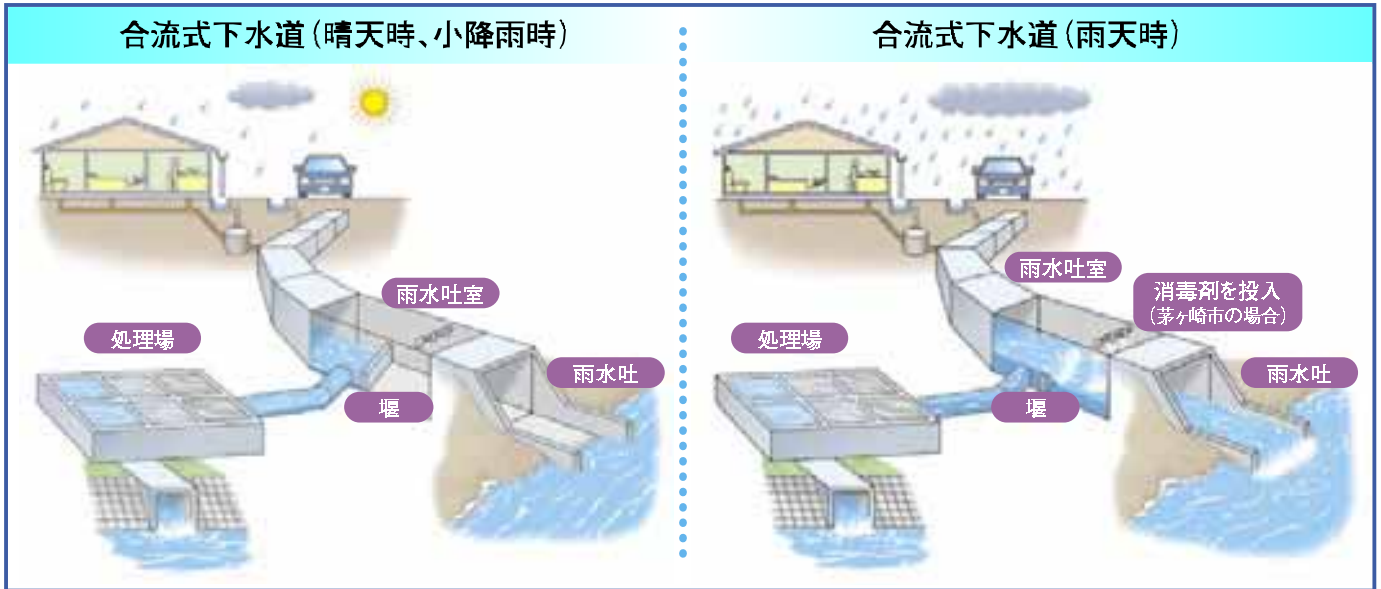


合流式下水道のしくみ

合流式下水道は晴天時や小降雨時に下水管渠に流入する汚水や雨水は下水処理場に流れ、浄化されて海や川等に放流されます。しかし、雨天時に雨水の量が増えてくると、汚水が混じった雨水を未処理のまま海や川へ放流されます。本市では消毒剤を混入した上で海へ放流しています。（合流式下水道は下水

管渠が1本で済むために施工が簡易で安価であり、水洗化と浸水対策が同時に行えことから投資効果が高いとされてきました。そのため古くから整備されている下水道では多く採用されています。）



茅ヶ崎市の合流式下水道

本市の合流式下水道区域は、相模湾に面した中海岸、東海岸、松ヶ丘及び浜須賀の4排水区で、その合計面積は約633haです。これらの区域は昭和38年より整備が始まり平成9年に概ね完了

しています。雨水吐室は排水区に1箇所ずつ設けてあり、放流先は相模湾です。

